刈谷市歴史博物館NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

Vol.15
2024.04

CONTENTS

Next Exhibition［次回展示］---------- 1
Description［解説］---------- 2
Report［報告］---------- 3
Information［ご案内］---------- 4

Next Exhibition 次回展示

開館5周年記念 企画展「めでたきとり」

有料展

開催日　2024年4月27日㊏～6月9日㊐

▲ 楽雀香合（東京国立博物館蔵）
＜ Image:TNM Image Archives ＞

▲【重要美術品】鳳凰桐紋沈金経箱
（東京国立博物館蔵）
＜ Image:ColBase[https://colbase.nich.go.jp/] ＞

刈谷市の市章は､｢雁｣と「８」をモチーフとして図案化されています。この「雁」を題材とした絵画や工芸品は数多く存在し、古くから人びとに愛されてきた鳥であることがわかります。

本展では「雁」を主軸とし、刈谷・愛知にゆかりのある鳥を表した美術工芸品を通して、この地域に棲息する鳥たちを紹介します。

また、令和６年は刈谷市歴史博物館開館５周年の節目の年にあたるため、祝賀のモチーフとしてよく用いられる鳳凰や鶴の作品についても展示します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

DESCRIPTION 解説

絵画を鑑賞するポイントとは？―澤梅谷筆《花籠に文鳥》を題材に―

この度、刈谷市歴史博物館において、開館５周年記念企画展「めでたきとり」を開催いたします。絵画はもちろん、陶器や染織品など、多様なジャンルの作品が集まります。しかし、こうした作品の鑑賞方法を学ぶ機会は多くありません。本稿では、今回展示される澤梅谷筆《花籠に文鳥》を題材に、作品鑑賞のポイントをお伝えします。少しでも展覧会を楽しむ助けになればと思います。

①何が描かれているか？

まずは、その作品に何が描かれているかを確認しましょう。色とりどりの花を生けた籠とブンチョウが２羽描かれています。籠が埋もれるほどいっぱいの花は季節を問わず、春のサクラや夏のアサガオ、秋のキクなど、さまざまな種類が一堂に会しています。

ブンチョウの１羽は枝にとまり、もう１羽は仲間のほうへ向かっています。ポーズはやや堅苦しく、リアルな表現というよりは、お手本を見て描いたようなぎこちなさがあります。

こうした植物と鳥などの生き物を組み合わせた作品を花鳥画といいます。日本の絵画史における一大ジャンルですが、古代中国がササン朝ペルシャなどの影響を受けて昇華した唐や宋の文化が根底にあるジャンルです。花鳥画に限らず、日本の文化は中国の影響を受け、国内で醸成してきました。本作もその大きな流れにある作品の１つです。

②どうやって描いたのか？

次に、モチーフの描き方・技法に注目してみましょう。中央に大きく咲いているボタンの花を見ていると、輪郭線が薄いことに気が付きます。ほかの花も、明確な縁取りは少ないようです。

輪郭線は日本や中国の絵画にとっては「絵の骨格」にあたります。中国・宋代の宮廷では、鈎勒（こうろく）（モチーフの輪郭を線でくくる技法）が主流だった時代に、花鳥画の名手・徐崇嗣（じょすうし）の新しい技法として、色彩の濃淡のみで表現する「没骨法（もっこつほう）」が登場しました。日本では長らく輪郭線を重視する絵画を主流としていましたが、明治維新によって西洋の絵画が輸入されると、横山大観や菱田春草などが、線描のない彩色画を意欲的に取り組みはじめます。当初は、東洋美術たらしめる墨線を日本画から排除する技法として「朦朧体（もうろうたい）」と揶揄されましたが、大観やその後の世代が研究を重ね、朦朧体風の傑作を生みだします。

③誰が描いたのか？

本作には落款（作者の署名と印）がありませんが、来歴から澤梅谷の作品とわかります。澤梅谷は、文久元年（1861）に刈谷藩の大監察・澤健次郎俊盛の子として生まれました。知多郡の小学校で教鞭をとる傍ら、漢籍の私塾も開き、熱心な教育者であったと伝わります。その一方で、梅谷は半田で活躍していた山本梅荘に師事し、山水画を学んでいました。画業の初期は、中国の明や清の絵画を模写し、各地を歴遊して風景を描いていました。その後、東京で滝和亭（たきかてい）に花鳥画を学び、動植物画の研鑽を積んでいます。

滝和亭は、万国博覧会などで受賞し、明治 26 年（1893）に帝室技芸員となる画家で、彼が得意としたのが、没骨彩色の優美な花鳥画でした。梅谷は当時の一流画家から学び、画技研鑽に努めたのです。本作でも、師に倣って美しく咲く朦朧体風の花を目指している様子がわかります。

以上、澤梅谷筆《花籠に文鳥》の鑑賞ポイントを３つ挙げてみました。ほかの作品でも何が・どうやって（どういう技法で）・誰によって描かれたのかというポイントは、作品理解の上で重要です。

ぜひ企画展「めでたきとり」に足を運んでいただき、作品を鑑賞してみてください。きっといつもより楽しめると思います。

（当館学芸員　永井優香子）

REPORT 報告

企画展「井ケ谷古窯展―いにしえの刈谷のものづくり―」

2023年7月22日㊏～9月10日㊐

▲バスツアーの様子

▲イベントの様子

刈谷市の北部、豊田市の南西部には古代～中世にかけての古窯が76基存在し、井ケ谷古窯跡群と呼ばれています。今回はその井ケ谷古窯跡群についてご紹介させていただきました。

企画展期間中には、井ケ谷古窯跡群内の石神第1～3号窯の位置する刈谷ハイウェイオアシスで出張展示＆勾玉づくりイベントを行い、たくさんの方にご参加いただきました。

そのほか、講演会や愛知教育大学との連携イベント、愛知教育大学内の松根第3号窯の見学バスツアーも開催し、より多くの方に「井ケ谷古窯跡群」について知っていただくことができたかと思います。

本展にご出品・ご協力いただいた方々、ご来場の皆様に改めてお礼申し上げます。

（当館学芸員　河野あすか）

企画展「姫たちの想い～家康を支えた水野家の女性たち～」

2023年10月14日㊏～11月26日㊐

今回、大河ドラマ「どうする家康」でも注目された家康の母於大を中心に、水野家出身の女性たちを紹介しました。於大の章では、「伝通院調度品」（楞厳寺蔵、刈谷市指定）や通常非公開の「伝通院坐像」（知恩院蔵）などから、於大の人柄や深い信仰心に触れていきました。そのほか、三河真宗寺院を束ねた家康の伯母妙春尼の功績や、家康養女として加藤清正に嫁ぎ両家を繋いだかな姫（水野勝成妹）の波乱に満ちた生涯を紹介しました。縁の品々を通して水野家の姫たちの活躍を初めて知ったという方も多く、戦国女性の生き様にそれぞれ想いを馳せていただいたようです。

▲特別ひめ茶会の様子

関連イベントの講演会や手まりづくり体験、ゆるキャラと刈谷城盛上げ隊の写真撮影会など、多くの方にご参加いただきました。そして当館初の試みである「特別ひめ茶会」では、姫をイメージした設えの中、格調高いひと時を味わっていただけた事と思います。

最後になりましたが、本展にご協力、またご来館いただきました方々に深く御礼申し上げます。

（当館学芸員　水野節子）

INFORMATION ご案内

2024 年度　企画展スケジュール

▲ 梟図（京都国立博物館蔵）

４月２７日㊏～６月９日㊐
「めでたきとり」（開館５周年記念）

７月１３日㊏～８月２５日㊐
「石器時代を生きる」

１０月５日㊏～１１月１７日㊐
「刈谷生まれの雪の殿さま　土井利位」

▲ 中手山貝塚出土石器（当館蔵）

▲ 北越雪譜（当館蔵）

簡単工作（4 月～ 6 月）

土日祝日開催
　受付は午後 4 時 30 分まで

・まが玉　300 円
・折り紙「にわとり・ひよこ」　無料
・季節メニュー「紙コップこいのぼり」　100 円
（4 月 20 日～ 5 月 5 日期間限定）

◎ ポイントカードを発行します ◎
簡単工作に参加し、ポイントを集めてグッズと交換しよう！

カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

企画展「めでたきとり」
企画展「石器時代を生きる」
休館日

利用案内

開館時間：午前 9 時～午後 5 時
観　覧　料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料
　　企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道　JR 東海道本線　逢妻駅
名鉄三河線　刈谷市駅　から徒歩約 15 分

バス　刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車　徒歩約 3 分

車　伊勢湾岸自動車道
名古屋南 IC、刈谷スマート IC または豊田南 IC から約 20 分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、または X（旧 Twitter）をご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館
KARIYA city Museum of History
〒 448-0838 愛知県刈谷市逢妻町 4 丁目 25 番地 1
TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108
URL：https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/

◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館 NEWS のバックナンバーを掲載しています。

◀ 公式 X（旧 Twitter）
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。